

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年10月23日(水)

活動隊員：網木政江

1. 活動期間

2024年10月15日(火) 8時30分～2024年10月18日(金) 17時00分

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）
珠洲市休養村センター（石川県珠洲市馬縹町17-163-1）
仮設住宅：高屋町第1団地（高屋漁港・石川県珠洲市高屋町927）
在宅：珠洲市馬縹町

3. 石川県珠洲市の地震被害状況（10月15日14:00現在 石川県庁情報第165報）

人的被害 死者：126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重傷47人、軽傷202人
住家被害 建物全壊・半壊・一部破損：5,554棟、非住家被害：5,995棟
避難所開設数：11箇所 避難者数82人

4. 令和6年奥能登豪雨による被害状況（10月16日16:00現在 石川県庁情報第23報）

人的被害 死者：14人（珠洲市3人） 行方不明者1人（輪島市） 安否不明者0人
負傷者：重傷2人、軽傷45人（珠洲市9人）
住家被害 建物全壊16棟（珠洲市5棟） 床上浸水318棟（珠洲市113棟）
床下浸水1,055棟（珠洲市401棟）
避難所開設数：32箇所（珠洲市10箇所） 避難者数393人（珠洲市45人）
水道関係 土砂崩れによる水道管等の破損による断水 1,012戸（珠洲市414戸）

5. 大谷地区避難者状況

- ・大谷小中学校避難所避難者数
10月15日～10月18日 28人（70歳以上12人、児童・生徒2名）
- ・珠洲市自然休養村センター避難者数
10月15日～10月18日 8人

6. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所>

避難者及び避難所に物資を取りに来られた住民に対し、健康状態の聞き取り及びバイタルサイン測定、健康相談、症状に対する対応、経過観察などを行った。朝晩の気温が20度を下回るようになり気温の変化があることや、晴天時には車が走るたびに砂埃が舞い上がるような環境にあり、咳嗽、咽頭痛、鼻水を訴える方が3名いた。うち1名（支援者）は前日に39度の発熱を認め、新型コロナウイルス+インフルエンザ簡易検査を実施、陰性ではあったが受診を勧めた。避難者や来所された住民にはマスク装着と含嗽の声かけを適宜行い、含嗽薬の希釈割合を書いたチラシの掲示及び物品を

整えた。期間中、風邪症状の増加や悪化はなかった。個別ケースでは、糖尿病の方からインスリン注射量の間違いの申し出があり経過観察を行ったが、昼食と間食を摂取され低血糖症状なく経過した。

環境面では、避難所周辺の泥や砂埃で玄関や廊下が白くなるため、靴の泥をよく落として入るよう玄関出入口に掲示するとともに、足洗い場の水を適宜交換した。また、福井県及び石川県の行政支援者と下駄箱や廊下の水拭き、マット代わりに使用しているバスタオルの交換、スリッパ及び物資を並べている台の上の清掃を行った。避難所にいる方もできることを手伝ってくださった。トイレは、屋外に仮設トイレ（水洗）2基、屋内トイレは、女性用はビニール袋と凝固剤使用、男性用は小便のみ使用可となっている。毎日、清掃と消毒を行っていたが、16日は仮設トイレ1基がトイレットペーパー以外の物が流されたことが原因で詰まり便が溢れたため対応した。ベッド環境面では、体育館1.5階に積んでいた使用しなくなった布団をクリーニングに出した。今後、クリーニングから戻ってきた布団と現在使用している布団を入れ替え、冬に向けた準備をしていく予定となっている。

支援物資は、前任者が整理して使いやすいようになっていた。今回は不用品を確認の上、使用しない大人用の大きいサイズの紙パンツや子供用おむつを返却し、保管室のスペースを確保した。給水は、月・水・金に3t/回、土日は不足の可能性があり、生活用水は井戸水が川水で対応することになっている。16日は袋入りの水が届き、担当者らとポリタンクに移す作業を行った。

< 珠洲市自然休養村センター > 10月15日 13時30分、10月17日 11時15分

馬縹町の自主避難所として1月1日から開設されている。センターの避難者8人+支援者5人、馬縹町在宅住民43人（うち独居13人）。支援者の男性より避難所の状況について伺った。訪問時、センター避難者は全員仕事に行かれ不在だった。センター内に健康状態が気になる避難者はいなかったが、在宅避難中の90代女性が心配と言われるため、その後訪問することにした。

個人や民間のボランティア団体の支援も受けながら運営、断水中のため山水を管で施設内・外に引き、風呂場（屋内）1箇所、シャワールーム（屋外）1基、洗濯機2台、仮設トイレ3基使用可能となっている。ケーブルテレビは未復旧、主にスマートフォンや新聞で情報を入手している。1階は食堂・団楽スペースがあり入り口に食料物資が並べられていた。2階は宿泊スペースとなっており、部屋ごとに町民宿泊所（男女別）、支援者宿泊所、ボランティア宿泊所と分けられ、段ボールベッドが使用されていた。10月13日にはキリコ祭りを開催、開催については周辺地区の大きな被害もあり検討したが、馬縹地区は孤立したが被害は少なかったことに感謝して開催を決めたとのことであった。「皆が生き返ったように喜ぶ顔を見て、やってよかった、嬉しかった」と目を潤ませて話された。

< 応急仮設住宅、在宅避難者の訪問 >

10月15日1件、16日0件、17日5件（うち2件不在）、18日5件（うち2件不在）

【馬縹町】高齢独居世帯を訪問した。豪雨後、市内福祉避難所に入所し10/10に自宅に戻った90代女性（独居・要介護2）は、他の避難者が皆退所して寂しくなり、外出も自由にできないため退所したと言われていた。使用できるのは電気とガスのみ、水道、ケーブルテレビ、一般電話は未復旧にて、隣町に住む家族や地域の方の支援を受けながら生活されていた。「家は畑のこともできるし、好きなようにできる」と言われ、ご本人の望む生活ができる一方で、清潔の保持などが難しい状況にあり、福祉サービスの提供も困難なエリアのため、エリア担当保健師と情報共有し、フォロー継続とした。

高台に住む 70 代女性（独居・ADL 自立）は、生活水の確保が大変とのことであった。飲料水は支援団体が届けてくれるが、生活水は家の近くの湧水汲み場まで行かれていた。ご飯はレトルトパック、おかずは家にある材料で自炊、身体の清潔は、湯を沸かして清拭、足浴、洗髪をし、出かけたときに入浴するという。バスが不通のため、買い物や通院は、避難所支援者や市外に住む家族にお願いしなければならず不便を感じておられた。自宅内にムカデが度々出てきて 2 回刺されたためベッドを使用、一次帰宅する息子さん用に段ボールベッドの希望があり避難所から届け設置した。

【高屋町】 応急仮設住宅の高齢独居宅と一部の高齢夫婦世帯を訪問し、健康状態および生活状況を確認するとともに、10/22 からスタートする大谷地区お茶会の案内、11 月から再開される大谷診療所及び折戸診療所の案内をした。10/16 の情報共有会議の際に、アルコール問題が取り上げられていたため、アルコールを摂取される方には食事等の生活状況をより丁寧に聞いた。生活面ではケーブルテレビの早期復旧を望む声が多かった。訪問した世帯はみな公費解体待ちで、自宅再建については年齢的に難しいと考えておられたり、検討されたりしていたが具体的なところまでは至っていなかった。仮設団地のコミュニティとしては、元々高屋町の住民が入居しており関係性もよく、隣町の高齢者が 1 名いることも把握されており、住民同士が声を掛け合ったり、物を届けたりする姿が見られた。一方、隣町の方自身は、気にかけてもらっていることに感謝しつつ、「私は高屋の人間ではないから」という思いがあり、寂しい気持ちもうかがえた。

< 情報共有会議 > 10 月 16 日（水）13:30～14:30 オンラインにて参加

豪雨後の空気汚染や水道水の濁りに対する健康被害の不安やトラック車両の騒音の訴え、訪問を負担に感じている方がいることなどが報告された。また、アルコール問題が増加傾向にあり、対応に関する意見交換及び勉強会を行うことの提案がなされた。その他、大学が本部への連絡なしに住民へアンケート調査をしている状況があることの報告があった。

珠洲市総合病院からは、11 月から下記の診療所再開について案内があった。

- ・大谷診療所：第 1・第 3 木曜日 大谷公民館 14 時～15 時 30 分
- ・折戸診療所：第 2・第 4 水曜日 折戸町第 1 団地集会所（日置ハウス上）14 時～15 時 30 分

< 大谷地区住民説明会 >

日時・場所：2024 年 10 月 17 日（木）15:30～17:35 大谷小中学校体育館

出席者：住民約 30 名、国土交通省、林野庁、石川県土木、北陸電力、珠洲市、ほか支援関係者
大谷地区の復旧状況及び今後の見通しについて説明会が行われた。以下、説明概要である。

1) 浄水場に関すること

- ・大谷浄水場は、可搬式浄水装置を設置し既設の浄水場と併用し、飲料水としての水質を確保する。水質検査の結果がでるまで約 3 週間かかるため、水を作れるようになった段階で生活用水として通水し、検査結果で飲料水適用可となれば通知する。浄水場の復旧と併せて水道管の埋設工事を施工、11 月中旬頃に送水予定。
- ・馬縹町の給水エリア可能な所は先行して配水池に給水始め、確認次第、配水予定。
- ・高屋浄水場は 10 月第 4 週中頃から安定した水作りが可能になる見込み。大谷浄水場と同様、まずは生活用水として通水し、水質検査後、飲料水とする。

- ・清水町は、配管を延長し大谷浄水場から配水する方針、11月又は12月になる見込み。
 - ・真浦町は、給水車での対応しかない状況である。
- 2) 山林崩壊、山の復旧に関すること
- ・大谷川左岸側の大規模な崩壊、その他の小規模の崩壊部ともに、大型土嚢の設置や土砂撤去を進めている。小規模の崩壊箇所の工事完了は2年半、大規模の崩壊箇所の完全復旧は5年以上かかる見込み。応急復旧の目標は遅くとも来年6月。長期避難指示は工事が完了するまで継続。
- 3) 道路の復旧状況に関すること
- ・大谷トンネル、烏川大橋、ループの被害が大きく、国道249号の復旧時期は未定。
 - ・上黒丸大谷線は国道249号の迂回路となるため、今年は5cm以上の積雪で除雪する。
- 4) 大谷仮設住宅を含めた住まいのこと
- ・建物は完成、外構工事と浄化槽の設置がこれからであり、12月下旬に完成予定。家電の搬入、据え付けのため完成から1週間から10日で入居可能。
- 5) 2次避難について
- ・2次避難希望者に対し、積極的に石川県において2次避難の体制をとる。

<地域コミュニティ支援>

正院まちづくりワーキング

開催日時：10月16日（水）19時～21時、正院町第1団地集会所

参加人数：公民館長など8名

オブザーバーとして参加した。10/25（金）の正院町まちづくり協議会立ち上げの会議に向け、代表者及び組織図に関すること、協議会の名称案、会議出席者の範囲・方法について協議されていた。

5. 支援活動を通しての所感と課題

豪雨から1ヶ月を迎えるところだが、大谷地区全体で水道が未復旧、市内全体でも取水する川の水が濁り供給できる水の量が減少し断続的な断水が発生している状況である。

大谷地区住民の中には、道路、山、川、浄水場等の復旧作業が難航している現状を理解しつつも、業者をもっと投入して同時進行するなどすれば効率的にできるのではないかと考える方もおられ、復旧が進まないことに対する苛立ちも感じられた。仮設住宅の完成も12月下旬になる見込みとなり、避難所運営者への負担と、避難所で冬季を迎えることによる避難者の健康への影響が懸念される。自宅や応急仮設で暮らす高齢者の中には、「戦争を経験して食べられない生活を経験しているので今は恵まれている」「贅沢は言っていられない」と話される方もおり、ニーズの声があがりにくい可能性もある。季節の移り変わりにより必要な物、支援も変化し、健康上も注意が必要となってくる。引き続き、訪問等を通してニーズを把握し、取り残される方がないように注意していく必要がある。

6. 写真



写真 1. 大谷地区住民説明会（10月16日）



写真 2. 給水作業の様子



写真 3. 五右衛門風呂の撤去（10月17日）



写真 4. 在宅避難者宅での段ボールベッド作成